

2024年3月6日

慶應 SFC 学会 殿

政策メディア研究科 教授 荒川 和晴

2023年度先端生命科学研究会冬季成果発表会成果報告書

標題の件について、下記の通り報告する。

1. 参加者：先端生命科学研究会所属教員 10 名、学生 71 名
2. 開催日時：2024 年 2 月 5 日（月）、6 日（火）（1泊2日）
3. 開催地：ハートピア熱海（〒413-0002 静岡県熱海市伊豆山 717-18）
4. <内容>

2023 年度修了予定の博士課程 3 名、修士 3 名、学部生 18 名、合計 24 名の口頭発表を行い、研究会に所属する学生の意見交換会を開催した。修了予定学生の発表内容は以下の通り。

- 1) 博士課程 3 年 月見 友哉：Modes and mechanisms of individual specificity of resident microbes in mammals
- 2) 博士課程 3 年 Daniel Evans-Yamamoto：haracterizing protein evolution with systematic protein-protein interaction screenings
- 3) 博士課程 3 年 齋藤 元文：Large-scale molecular evolutionary and bio- chemical analyses revealed diversity of poly- nucleotide kinase Clp1 family proteins in the three domains of life
- 4) 修士課程 2 年 石川 創良：Examining the precise promoter region of CAHS3 in extremotolerant tardigrade *Ramazzottius varieornatus*
- 5) 修士課程 2 年 福満 和：液体クロマトグラフィー質量分析法を用いたジペプチド一斉測定方法の開発と細胞育成環境の解明
- 6) 修士課程 2 年 彭 永晟：Analysis of the cold and freeze tolerance mechanisms in the tardigrade *Acutuncus antarcticus*
- 7) 環境情報学部 4 年 永壽 暖：イネの遺伝子発現量予測におけるサンプリング条件の影響解析
- 8) 環境情報学部 4 年 金 度ヨブ：Review about ecology and Approach to build artificial ecosystem
- 9) 環境情報学部 4 年 高井 陸：惑星保護に係る殺菌技術の確立に向けた微生物の湿熱耐性の調査
- 10) 環境情報学部 4 年 高橋 ひまり：創傷治癒を促す漢方薬の探索と分子機序の調査
- 11) 環境情報学部 4 年 佐藤 もも：Optimization of Gas Chromatography / Mass Spectrometry with hydrogen carrier gas for metabolomic analysis
- 12) 環境情報学部 4 年 佐藤 竜輝：ドッキングシミュレーションを用いたポリケチド 合成酵素の機能改変と酵素活性測定
- 13) 環境情報学部 4 年 佐伯 昇彰：異なる野生系統間におけるシロイヌナズナのアレロパシー活性の GO 解析とブナ科樹木の *rbcL* 遺伝子配列による系統関係
- 14) 環境

情報学部 4 年 市村 涼葉 : Elucidation of interaction mechanisms between immune response and gut microbiota 15) 環境情報学部 4 年 清原 海音 : トランスオミクス解析を用いたメトホルミンによる免疫細胞の代謝 16) 環境情報学部 4 年 西田 有希 : がん幹細胞制御因子の新規探索と制御機構の解明 17) 環境情報学部 4 年 増井 真那 : 生物における「自己」の進化の理解を目的とした変形菌の自他認識行動の研究 18) 総合政策学部 4 年 池田 陽人 : 新たな創薬手法開発に向けた薬用植物のプレバイオティクスとしての検討 19) 環境情報学部 4 年 中西 礼知 : TdT 酵素による合成 DNA を用いた DNA ストレージのシミュレーター 20) 環境情報学部 4 年 中川 恒 : 非侵襲で`行うクモ幼体の種同定と雌雄判別手法開発 21) 環境情報学部 4 年 田中 聡一郎 : DNA の損傷で SLFN11 が引き起こすリボゾーム生合成障害によって変化する遺伝子発現の解析 22) 環境情報学部 4 年 藤本 悠人 : *Bacillus subtilis* (枯草菌) ゲノムの各座標における 遺伝子組換えに対する特徴差の網羅的調査 23) 環境情報学部 4 年 冨田 敦幹 : 大規模トランスクリプトームによるサリチル酸/ジャスモン酸- 濃度依存的な植物の転写応答の解析 24) 環境情報学部 4 年 Yichen Jiang : Proteome analysis of SLFN11 inducible drugs

5. 総括

昨年度に引き続き、本年度も学術交流活動助成金の支援を受け、SFC と TTCK 学生との間で合宿形式の成果発表会を開催することができました。この研究会合宿は、学生および教員が直接対話し、研究成果やアイデアを共有する貴重な機会となりました。

今回の成果発表会では、多様な研究分野からの先進的な研究成果が披露され、参加者間での深い議論が行われました。特に、修了予定の先輩学生による研究発表は、後輩学生にとって大きな刺激となり、彼らの研究への情熱を新たに感じます。また、様々なバックグラウンドを持つ参加者同士の意見交換は、新たな視点を提供し、今後の研究方向性を模索する上で重要なヒントとなりました。

合宿を通じて得られた知見と経験は、参加した学生および教員の研究活動において大きな財産となります。このような実質的な学術交流の場を提供することで、研究の質の向上だけでなく、学生間のコミュニケーションと相互理解も深まり、合同研究会全体の発展に寄与していくことを期待しています。

最後に、このような貴重な機会を提供してくださった学術交流活動助成金に、改めて感謝の意を表します。今後もこの成果発表会を継続し、SFC と TTCK にまたがる合同研究会の学術交流の一層の活性化を図って参りたいと思います。慶應 SFC 学会に深く感謝申し上げます。

以上